Sub Title	Title	itory of Academic resouces 看護教育における短期留学生受け入れ国際交流プログラムの効果					
REL リカ(Fujiya, Rika) Publisher							
Publication year Jutite Jatic DOI  Abstract  「表現の一般である。 1200 学生の一般である。 1200 学生の一般である。 1200 学生の一般である。 1200 学生の通年教育への受け入れば困難な状況にある。 本学部では、2016 年度から短期留学を対け入れてログラムを実施している。 1200 年度から短期留学を受け入れてログラムを実施している。 1200 年度ではな学士の一般で表現では、1200 年度では、1200 年度は、1200 年度は、							
Publication year  Jatco DOI  Abstract  Abstr							
Jatic DOI  Abstract  看護医療学部の教育の国際化について、本学部学生が海外で学習・活動する機会は充実している。しかし、留学生の通年教育への受け入れは困難な状況にある。本学部では、2016 年度から現留 ピッチリスカブログラムを実施し程間・中国・英国・米国から世生を受け入れ、中学部からも ほぼ同数の学生が参加している。参加学生からの評価は高く、本研究は、看護教育基礎における 短期留学生受け入れ回際交流 ログラムの効果を明らかにすることを目的にしている。 2019年度は3年計画の研究の34年日である。2017年度に関象交流プログラムの計画・立案に合わせて、参加 4大学(韓国、中国、英国、米国)の関係者との調整、本調査の準備として関係者のインタとユーや予備調査として可能をデアンケートを実施した。2018年度は7日間からがよりないままして関係者のスータとユーや予備調査として関係者をアンケートを実施した。2018年度は7日間から成果と同際交流が日グラムが開査として関係をアンケートを実施した。2019年度は3年計画の研究の34年日である。2017年度に関係交流が日が日からのインタとユーや予備調査として関係をアンケートを実施した。2019年度は7日の一般の影響と同様のアンケートを実施した。2019年度は7日の一般の影響を取り上に一に基づき、アンケート調査項目を決定した。プログラム参加学生の開始前と終了をアンケートを実施した。2019年2月にフログラムに関する糸行研究のレビューに基づき、アンケート調査項目を決定した。プログラム参加学生の開始前と終了を変を性を関立する外の場合として、一般自己効力感形を見たる、プログラムが関するトのでは、2019年度はアンケート結果を分析し、参加学生のプログラムへの満足度は非常に高く、内容では在宅看護実習への評価が高いプログラムをは高くスを傾向にあった。交流会、在宅看護実習への評価が高いプログラムのではある。メスを表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の							
Abstract							
高速医療学部の教育の国際化について、本学部学生が海外で学習、活動する機会は充実している。しかし、留学生の通年教育への受け入れは困難な状況にある。本学部では、2016 年度から短期留学を明入れてログラムを実施、時間・中国・英国・米国から留学生を受け入れ、本学部からもほぼ同数の学生が参加している。参加学生からの評価は高く、本研究は、香藤教育基礎における短期留学生受け入れ国際交流プログラムの共産の場所のおけられている。2019年度は3年計画の研究の3年目である。2017年度に国際交流プログラムの計画・立まに合わせて、参加 4 大学(韓国・中国・英国・米国)の関係者との観象、本調室の帯域として関係者へのインタビューや予備調査として研修後アンケートを実施した。2018 年度は予備調査の結果と国際交流や留学プログラムに関する朱行研究のレビューに基づき、アンケート開査項目を決定した。プログラム参加学生の開始前と様子後の変化を測定する尺度として、一般自己効力感尺度を用いて実施し、カロ10 79 人が関係者との関係者との関係者との関係者との関係者との関係者との関係者との関係者との		子事派與貝並听先戍未夫賴報百音 (2019. <i>)</i>					
。 しかし、留学生の通年教育への受け入れば困難な状況にある。本学部では、2016 年度から短期留学をけ入れて回ぐうムを実施し韓国・中国・英国・米国から留学生を受け入れ、本学部からもほぼ同数の学生が参加している。参加学生からの評価は高く、本研究は、看護教育基礎における短期留学生受け入れ国際交流プログラムの効果を明らかにすることを目的にしている。2019年度は3年計画の研究の3年目である。2017年度に国際交流プログラムの計画・立案に合わせて、参加4大学(韓国・中国・英国、米国)の関係者との調整、本期産の準備として関係者へのインタビューや予備調査として関係者へのインタビューや予備調査とは不見情報をかました。際交流や留学プログラムに関する先行研究のレビューに基づき、アンケート調査項目を決定した。プログラムを加学生の開始前と終了後のアレニューに基づき、アンケート調査項目を決定した。プログラム参加学生の開始前と終了後のアレニューに基づき、アンケート調査項目を決定した。プログラム参加学生の開始前と終了後の受化を測定する尺度として、一般自己効力感尺度を用いて実施し、自由記述機を設け、それらも分析と対象とした。2019年度にはアンケート結果を分がした。参加学生はプログラムへの満足度は非常に高く、内容では在宅看護実習への評価が高かった。留学生は日本人学生に比べて、講義、罪悪看護実習への評価が有きに高く、プログラム後の自己効力が表が表で表が高くなどの場である。アログラムの海足度は非常に高く、内容では在宅看護実習への評価が高かった。留学生は日本人学生に比べて、課金、非悪看護実習への評価が有きに高くブログラム後の自己効力を対象、プログラム満足感が高い学生はプログラム後の自己効力をが有き、アログラム機の自己効力をが有き、アログラム機の自己効力をがある。アログラム機の目の対力をがあるとでは、新型コロナウイルス蔓延の関係で困難となったため、状況を鑑みながら今後の実施を検討する。In the global and international education of the Faculty of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for the students to study and practice abroad are enriched. However, it is difficult to accept foreign students for full-year education. Therefore, the faculty have conducted a short-term international exchange program since 2016, the program has received approximately 2 foreign students from full-year education. Therefore, the faculty have conducted a short-term international exchange program since 2016, the program has received approximately 2 foreign students from Korea. China, the United Kingdom, and the United States with the similar number of Keio nursing students.  The fiscal 2019 is the third year of the three-year plan of research. In fiscal 2017, we discussed the plan of this study with the staff of participating 4 universities (Korea, China, UK, US) during the preparation for the short-term international exchange program we conducted a free program. We conducted the program, and we decided the questionnaire survey items based on the results of the preliminary survey and the review of prior research on international exchange program survey and a post-program sur							
Genre Research Paper	Abstract	レかし、留学生の通年教育への受け入れは困難な状況にある。本学部では、2016 年度から短期留学受け入れてログラムを実施し韓国・中国・英国・大国・大国・大田では、本研究は、看護教育基礎における短期留学生を受け入れ、本学部からもはほ同数の学生が参加している。参加学生から即評価は高く、本研究は、看護教育基礎における短期留学生受け入れ国際交流プログラムの効果を明らかにすることを目的にしている。2019年度は3年計画の研究の3年目である。2017年度に国際交流プログラムの計画・立案に合わせて、参加4大学、韓国、中国、英国、米国)の関係者との調整、本調査の準備として関係者へのインタビューや予備調査として研修後アンケートを実施した。2018年度は予修調査の結果と国際交流や留学プログラムに関する先行研究のレビューに基づき、アンケート調査項目を決定した。プログラム参加学生の開始前と終了後の変化を測定する尺度として、一般自己効力感尺度を用いて実施し、自由記述欄を設け、それらも分析と対象とした。2019年2月にプログラム前調査及びプログラム後調査を実施した。2019年2月にプログラム前調査及びプログラム後調査を実施した。2019年2月にプログラム前調査及びプログラム後調査を実施した。2019年2月にプログラムでは在宅看護実習への評価が高かった。一般では存まれている。多加学生のプログラムでは存まで表がした。参加学生のプログラムの満足度は非常に高く、内容では存宅看護実習への評価が高かった。留学生は日本人学生に比べて、講義、罪悪看護実習への評価が高い学生はプログラム後の自己効力感が高く、プログラム海底に高く域向にあった。交流会、在宅看護実習への評価が高い学生はプログラム後の自己効力感が高く、プログラム海底の目の効か感は、プログラム海底の影が高い学生はプログラム後の自己効力感が高い学生はプログラム後の自己効力をが高い学生はプログラム後の自己効力をが高い学生はプログラム後の自己効力をが高い学生はプログラム後の自己効力をが高い学生はでは多いでは一般であることが明らかによった。2020年2月のプログラム後に各大学の関係者と結果を評価する予定でいたが、新型コロナウイルス蔓延の関係で困難となったため、状況を鑑みながら今後の実施を検討する。In the global and international education of the Faculty of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for the students to study and practice abroad are enriched. However, it is difficult to accept foreign students for full-year education. Therefore, the faculty have conducted the proparam international exchange program. We conducted the post-program undestionnaire and interviews and related investigation to the stakeholders. Then in fiscal 2018, we decided the questionnaire survey items based on the results of the preliminary survey and the review of prior research on international exchange program. We conducted the post-program participation student. We also added a free description column in the questionnaire survey of this fiscal year. In February 2019, we conducted a pre-program survey and a post-program survey and the review of prior research on international exchange program. We conducted the post-program participation students were were more highly evaluated in lectures and home nursing practices, and their achievement in the program than					
	Notes						
	Genre	Research Paper					
UNE	URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190161					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2019 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	看護医療学部	職名	専任講師	補助額	1,000 (特A	\ <i>±</i> m
	氏名	藤屋 リカ	氏名(英語)	Rika Fujiya		1,000 (1 <del>1</del> A	(特A)千円

#### 研究課題 (日本語)

看護教育における短期留学生受け入れ国際交流プログラムの効果

## 研究課題 (英訳)

Effects of short-term international exchange program in nursing education

# 1. 研究成果実績の概要

看護医療学部の教育の国際化について、本学部学生が海外で学習・活動する機会は充実している。しかし、留学生の通年教育への受け入れは困難な状況にある。本学部では、2016年度から短期留学受け入れプログラムを実施し韓国・中国・英国・米国から留学生を受け入れ、本学部からもほぼ同数の学生が参加している。参加学生からの評価は高く、本研究は、看護教育基礎における短期留学生受け入れ国際交流プログラムの効果を明らかにすることを目的にしている。

2019 年度は3年計画の研究の3年目である。2017年度に国際交流プログラムの計画・立案に合わせて、参加4大学(韓国、中国、英国、米国)の関係者との調整、本調査の準備として関係者へのインタビューや予備調査として研修後アンケートを実施した。2018年度は予備調査の結果と国際交流や留学プログラムに関する先行研究のレビューに基づき、アンケート調査項目を決定した。プログラム参加学生の開始前と終了後の変化を測定する尺度として、一般自己効力感尺度を用いて実施し、自由記述欄を設け、それらも分析と対象とした。2019年2月にプログラム前調査及びプログラム後調査を実施した。

2019 年度はアンケート結果を分析した。参加学生のプログラムへの満足度は非常に高く、内容では在宅看護実習への評価が高かった。留学生は日本人学生に比べて、講義、罪悪看護実習への評価が有意に高く、プログラムでの達成感も有意に高い傾向にあった。学生の自己効力感は、プログラム前に比べプログラム後は高くなる傾向にあった。交流会、在宅看護実習への評価が高い学生はプログラム後の自己効力感が高く、プログラム満足感が高い学生はプログラム後の自己効力感が有意に高い傾向にあることが明らかになった。2020 年 2 月のプログラム後に各大学の関係者と結果を評価する予定でいたが、新型コロナウイルス蔓延の関係で困難となったため、状況を鑑みながら今後の実施を検討する。

### 2. 研究成果実績の概要(英訳)

In the global and international education of the Faculty of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for the students to study and practice abroad are enriched. However, it is difficult to accept foreign students for full-year education. Therefore, the faculty have conducted a short-term international exchange program since 2016, the program has received approximately 20 foreign students from Korea, China, the United Kingdom, and the United States with the similar number of Keio nursing students.

The fiscal 2019 is the third year of the three-year plan of research. In fiscal 2017, we discussed the plan of this study with the staff of participating 4 universities (Korea, China, UK, US) during the preparation for the short-term international exchange program. We conducted the post-program questionnaire and interviews and related investigation to the stakeholders. Then in fiscal 2018, we decided the questionnaire survey items based on the results of the preliminary survey and the review of prior research on international exchange and study-abroad programs, and we selected "General Self-Efficacy Scale" as a scale to measure the change before and after the program participation student. We also added a free description column in the questionnaire survey of this fiscal year. In February 2019, we conducted a pre-program survey and a post-program survey participants of the short-term exchange program.

In fiscal 2019, we analyzed the survey results. As a result, the students were very satisfied with the program, and the home nursing practice was highly evaluated. Compared to Japanese students, international students were more highly evaluated in lectures and home nursing practices, and their achievement in the program tended to be significantly higher. Students' self-efficacy tended to be higher after the program than before. It was clarified that students with high evaluations for exchange meetings and home nursing practices had high self-efficacy after the program, and students with high satisfaction to the program tended to have significantly higher self-efficacy after the program. After the program in February 2020, I was planning to evaluate the results with the people involved in each university, but it was difficult due to the COVID-19 pandemics, so we will consider future implementation while concerning the situation.

# 3. 本研究課題に関する発表 発表者氏名 (著者・講演者) 発表課題名 (著書名・演題) 発表学術誌名 (著書発行所・講演学会) (著書発行年月・講演年月)